020655-000-6

特52-544

最大の学問

デフォレスト/著

M42

ABI-0471

帝國圖書館藏

神學博士 デフオレスト述

最大の學問

東京 警醒社書店

明治
42 7 19
交換

THE EVANGELICAL LIBRARY

EDITED BY THE

Rev. K. HOSHINO

THE GREATEST LEARNING

BY

Rev. J. H. DeFOREST, D.D.

○宣教開始五十年紀念 傳道叢書

▲眞の神 山田寅之助君述
▲耶蘇の直說法 岡部清藏君述
▲神の現在 武本喜代藏君述
▲運命と信仰 柏木義圓君述
▲久遠實成の基督 平田平三君述
▲有情の神 光小太郎君述
▲信仰とは何ぞや 大谷虞君述
▲最大の學問 デフォレスト君述
▲純正福音 星野光多君述
▲神を知るの道 釘宮辰生君述
▲完全なる救 露無文治君述
▲生命の福音 今井壽道君述
▲福音の眞髓 有馬純清君述
▲信仰の要義 小松武治君述
▲最大益事 石坂龜治君述

○傳道叢書發行の辭

本年は宣教事業開始後滿五十年に相當す。於此乎諸教派は各自部署を定めて傳道運動に從事せり。此時に當りて吾人は、明治十六七年の頃、諸派共同無宗派的傳道をなしたりし往事を回想して、欽羨に堪へざるものあり。然れども今日となりては各派既に其歷史と特色とを有す、之を打つて一丸となし、以て大學傳道に從事せしめんこと、固より二三有志者の力之を能くすべきに非ず。是れ吾人が筆を以て傳道するの方針を立て、諸派有志者その勞を分擔して以て、茲に本叢書を發行するに至りたる由緣なり。願くは大方の兄姉等が吾人の微衷を諒とし、此等書冊を適宜傳道の用に供し、同胞を神の國に導くの一助たらしめんことを。

明治四十二年六月一日

傳道叢書編輯者
星野光多

最大の學問

神學博士
デフォレスト述

名を遠近に傳へ今なほ尊稱せらるゝ貴國の大儒貝原益軒先生は、人の富に三あり、金錢多く田畑豐かなるは是れ家の富なり、其體壯健にして病なきは是れ身の富なり、學識古今に通じて廣く世間の事理を知るは是れ心の富なり、と申されました。其意を解すれば、世の尋常人は心の富よりも身體家屋の富金錢などに重きを置くが自然

の情態なれども、人間の本來は、心の富を第一とし、身體家屋など
は第二第三とすべきものだと云ふので、是れは古今東西の賢者哲人
の皆均しく一致して敎ゆる所の順序であります。

一二例を擧れば泰西の聖人の中にも、萬有中には人間ほど大なる
ものなく人間の中には心より大なるものはなしと云た者がありま
す。キリストも「人もし全世界を得るとも其生命(心)を失はゞ何の
益あらんや」と云はれ、又「人の生命(心)は持つもの〳〵豐かなるに
はよらざるなり」と申されました。要するに此思想たるキリストの
みこれを啓示せられたるにあらずして、此所に於ては古今聖賢の思
想が皆符合して居るのであります。

貴國の武士道も此思想によらずしては決して國民を誘導扶掖する
事が出來ぬとぞんじます。我米國は新聞紙上屢々金錢崇拜黃金萬能
の國民なりと批難せられて居りまして、成程物質の方面のみを見れ
ば或は我國は世界第一の富國であるかも計られません故に拜金國の
批難は當然の樣でもありますが、是は極めて皮相の觀察に過ぎませ
ん。實際我米國人中にも金錢を第一とするもの多くあるは事實なれ
ども、こは見識下等なる人々のみにして、眞に我米國の獨立の基礎
を拓ゐた者や。七年間も戰爭を繼續し正義公道を行ふに盡瘁せし政
治家敎育家等は、決して金錢又は物質を以て目的と致しては居りま
せん。實際取調べて見まするこ孰れも皆心の富を第一とする所の人

々なることは明白であります。

世界各國に通じて行はれて居る嚴然たる一定の法則ある事を忘れてはなりません。そは則ち心の富を第一とする人々多からざれば其國の存立は危く其進歩は望むべかずと云ふことです。故に貝原先生が專ら心の富に重きを置かれたるは異例にあらず、何れの國民中にも先生と同じ說を主張し之がために奮發努力せらるゝ人々のありますことは人類の大なる幸福であります。これより心の富を分けて三つとなして御話いたします。

第一　貝原先生はよくも學問は心の富なりと仰せられました。學問を勵みて心の富を得ることは實に今日の急務であります。今や世界何れの國々にも大小學校の設けあらざるはなく、實に教育は吾人生存時代の榮冠と申すべきものであつて、智識はます〳〵進歩して地下にある秘密を探つたり天上にある妙理を捕へたりして之を利用善導し以て人類の幸福を增加してをります。

貴國に於ては僅かに三四十年にして今や都會と云はず村落と云はず小中學校の設備あり、到る所として教育の設備あらざるはなく、最も進歩したる學問智識の國民一般に普及しつゝある事は實に貴國の光榮にして最も祝すべき事であります。我米國に於て同樣でありまして我米國民が大に學問を奬勵し莫大の資財を投じて教育に貢獻したる事は自ら譽れとする所であります。されば今日に於て學問を

重ぜざる國民は最も時勢に後れたるものと云はねばなりません。併し人類最大の幸福は只學問智識にのみに存するでありませう乎、私は左樣には考へません。

第二　學問に加ふるに道德を以てせねばなりません。貝原先生も學問のみを以て滿足なりと仰せられず、德の高きをその要件こせられた事は明白です。サレバ道德を兼ねざる學問は一翼を失へる鳥の如く、梶なき船の如く、世に益なきのみならず反て危險なる恐れがあります。見よ當代の罪人中恐るべきものは學問ありて道德心なきものではありませんか。故に學問に加ふるに公德私德忠孝仁義愛國人道犧牲博愛等の諸德を以てするにあらざれば、大小學校も普通教育も只それだけでは尙ほ足らぬ所があります、尙ほ危險を免れぬと思ひます。

第三　既に學德兩ながら豐かなれば、心の富最早十分なりと思ふものあれども、そは大なる誤りであります。抑も人心の富の中極めて大切なる部分は宗教であります。之を度外に置きては眞正の富は得られません。世人動もすれば此要部を輕視いたしますが、心の富の中にはこれを第一とせねばなりません。私思ふに如何なる國にても宗教の助けを借らずして存立せるものはありません。宗教なき所には政治もありません。儒教の如きも何によりてその偉大なる道德的感化力を得て居る乎と云ふに、宗教心に愬へて之を得て居るので

あります。貴國の大儒中中江藤樹貝原益軒伊藤仁齋吉田松蔭横井小楠二宮尊德の如き學德高き人々は、孰れも深奥なる宗教心を有して居つた樣に思はれます。此等の人々は決して無信心無宗教の人ではありまん。否な孰れも深奥なる宗教心を懷いて居つた人々でありました。宗教心なくして決して斯の如き偉大なる人格こなる事は出來ざるものこ存じます。武士道も大和魂もその中より宗教心を除きましたならば餘す所のもの何でありましよう乎。されば宗教を度外視するも國家に何等の損害なしこ思ふものは大なる誤解をなせる人こ云はねばなりませぬ。

今試に心の富を分類して見まするこ學識道德宗教の三者こなります。而して此中最も大なるものは宗教こ思ひます。此順序は聖書に示して居る所でありまして、人の重んずべきものは實に第一信仰（宗教）第二道德第三智識であります、是を心の三大富こ申します。勿論此三者備はらば以て直ちに圓滿完全なる人間が現はれるこは申し難からんも、此こそ比較的最もよく之を養成し得る道であるこ信じます。但し此三者を別々にする事は大なる誤りであります。歷史によれば之を分離して其一を取りて他の二者を棄たる場合が國民こしても個人こしても屢〳〵あつたのであります。今一二例を擧ぐる事こ致します。抑も宗教心なるものは人の天性中最も力あるものに相違なきも智識乏しき時は大なる迷信に陷り、或は偶像を拜み、或は狐

狸を信じ或は人を欺き、自を欺いて何とも思はぬものがあります。彼の法術禁厭等を修するもの町村到る所に看板を掲げて營業して居るのを見ば、學問なき宗教心より起る迷信の勢力尚ほ恐るべきものある事が明白であります。此時代に於ては地獄の沙汰も金次第にて愚民を欺く方法は盛んに行はるゝのであります。歐米諸國にても學問なき時代は迷信盛んなるの時代でありまして基督教さへ人民の無學故に大に腐敗いたした事がありました。

今日尚ほ伊太利のチーブルス府に於ては左の怪談が信ぜられて居ります。今を距ること千七百年前羅馬政府多くの基督信徒を慘殺したことがありまして、其中に名高きジヤヌアリアスと云ふ人あり彼も刀にて切殺されましたが、信徒等其血を一個の玻璃瓶に收め置きました。然るに爾後一年に二回づゝ嚴めしき儀式を以て此瓶を多くの信徒に拜見せしむるに、不思議にも其都度瓶中に凝固せる血解けて液體となると言ひ傳へて居ります。

又露國に於ける一例を御話しますなれば、同國にては二百年前より基督教會中に一大爭論が起りました。そは同教信者の屢々行ふて居る風習でありまして指を以て胸に十字形を畫する儀式でありますが、之に關し指二本を用ゆるが正いと云ふと三本を用ゆるが正しいと云ふ二の說があるのであります。二本說によれば十字架は木二本より組立たるもの故指二本が正當であると申しますし、三本說の方

は神は三位一體なるが故に三本にあらざれば正しからずと主張して居ります。結局このつまらぬ儀式のため今日に至る迄烈しき議論をなし居るのであります。是に由て觀れば東西を論ぜず學問を度外に置きましては只宗教のみを主とする時代には自から迷信不道德の弊害行はるゝことは免れ難いことであります。

更に一例を擧げやすなれば、そは宗教を悪用して愚民を籠絡し、隱然一種の政府を形成して權柄を弄し、國民を壓制する事であります。私は不肖にして東洋歷史に精通いたして居りませんも、如何なる宗教にてもその盛んなる時に於ては陽に陰に政府の力に依て種々の弊害を釀すことあるは見易き事であります。曾て歐洲に於て羅馬法王非常なる權勢を得て居りし時、學問の普及を妨げ、思想自由を束縛し、金錢のため不正行爲を默許するなど腐敗を極めた事がありましたが、茲に於て宗教改革の大運動は起りました。露國の如きも今日の情態は國教の壓制束縛到らざる隈なく私如きも或は露國に宣教する事日本と同樣ならんには必ず捕へられて獄屋に投ぜらるゝに違ひありません。然れども露國民中には國教が政府の手足となりて人民を壓制する助けをなす事を甚しく嫌ふものがありまして八九年前にも大主教ポペドノスゼフを暗殺しようとして果さず昨年に至り遂に之を殺して其目的を達したと云ふ事でありますが實に困つた次第であります。

私此等の事を申述るも其國教を絶對的に非難する次第でありません。何こなれは其中には隨分德望高き紳士淑女も多くあるからであります。苟くも宗教にして腐敗を免れんか、其人類の進歩に伴ふて世を益する事多きは疑なき所であります。其建築を見れば輪奐の美世界に誇るに足るものあり。其音樂を聞けば洋々の聲人をして高尚なる喜悅と快感を感ぜしむるあり。又智識に關しては當時のあらゆる學問は凡て宗教家の手中に集めらるゝこと決して珍らしき話ではありません。

今日は幸にして信仰自由を唱道する文明時代となりまして私共は學問に兼るに宗教を以てし圓滿に且つ完全なる人格の出現を望むことが出來るようになつて來ました。主キリストは吾人に教へて「天に在す爾曹の父の全きが如く爾曹も全くすべし」と仰せられました。是れ神を知る事は限りなき幸福の本源である事を暗示し給ふたのであります。その事情より考へ見ると當時は迷信の甚しき時代なるにも係らずキリストの少しも其迷信に陷らざりしは誠に不思議なる事であります。彼が遺せし儀式の如きも僅かに二典即ち洗禮と晩餐とに過ぎません。この二典すら外形儀式の重きを說かず專ら內的精神に就て教へ給ひました。然るに當時の人々は割禮と云ふ儀式を重んじ安息日を守るに嚴則を設けたはよいが殿の庭內にすら商店を連ねて暴利を貪る者がありました。然もキリストは超然として迷信虛儀

を看破し給ひて、人間最大の職務は別義にあらず、只宇宙の司宰者なる天父を知るにありと仰せられました。且つ彼は此眞理を聊かも弊用することなく終始正義と博愛を敎へ、又他人のために自己を犧牲にすべき事など敎へ給ひました。實にかの少壯なる耶蘇基督が誤らずして純宗敎を創立し此世界的福音を傳へられた事は不思議なる事と思ひます。終りに此最大學問を脩むる心得につき一言いたします。

第一、何人にても此最大學問を脩めんとする者は須らく萬象を見て其奥義を考ふる心掛けなくてはなりません。此方法によりて吾人は幾分か神の性質を知り得る事が出來ます。古來東洋の聖賢は切りに天を敬畏しましたが、之と云ふも此天地間に顯はるゝ自然の美妙に接し之を一大思想家の創作なりと思ひましたからであります。舊約書詩の十九篇に「もろ〳〵の天は神の榮光を顯はし云々」とあります。是れ東西聖賢の其揆を一にする所であります。

第二、大人格に接してその心狀を窺ふことであります。抑も神は世に大人格を起し之に賦與するに己れに肖たる性質を以ていたします故に、其人物に接すればなほ深く神の性質を知り得る事が出來るのであります。實に天父を知るは最大の學問でありまして其天父は靈なるが故に親しく彼を見る事を得ざれども|キリスト|の人格は彼を寫せる明鏡であります。基督は自らを指して我を見し者は神を見し

也と教へ給ひました。神は人類の父にして其性質は愛であります。人類は神に像られて造られたればその性質中最も尊きは愛であります。而して此愛を完全圓滿に具體したものはキリストであります。サレバ自然の美のうちに現はれたる神性を學び知り又人類のうち就中キリストのうちに現はれし神の愛を知り自己の心中に之を養ひ此愛に反するものを棄てゝ思想言語行爲皆共に此大なる愛の法に隨て實行するとすれば茲に圓滿なる人格は成立すべき譯であります。實に聖書は此神の性質を明かに示すものにて、教會は此性質を備へたる信者の團體を世界に現はさんとするものであります。

勿論此修養を完全に實行する國若くは社會は世に未だ見る事を得

ません。然れども此を理想として日々勤むる所の官吏教師學者父母等の數年々に增加しつゝあることは事實であります。されば今後尙ほ戰爭の準備あるべきも、人種厭嫌の思想起るべきも、囚人監獄に充ることあらんも、現實に此博愛の精神の益々盛んにして之を養成するために吾人熱心盡力いたしますなれば、吾人は天父の祝福を受けて天國を此世界に實現せしむることゝ決して望み難きことではありませぬ。神を知る事は是れ實に最大最高の學問であります。

最大の學問 終

明治四十二年七月十四日印刷
明治四十二年七月十七日發行

述者　デフオレスト

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
發行者　福永文之助

横濱市太田町五丁目八十七番地
印刷者　村岡平吉

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
發行所　警醒社書店
電話新橋一五八七
振替貯金口座五五三番

横濱市山下町八十一番地
印刷所　福音印刷合資會社

不許復製

●デフォレスト博士著書●

▲新約聖書地名　郵定價四十五錢　郵稅二錢

▲精神的講話　郵定價四十五錢　郵稅二錢

▲戰爭と宗教　郵定價二三錢　郵稅二錢

▲米國魂　郵定價二三錢　郵稅二錢

▲世界的道德　郵定價二三錢　郵稅二錢

▲合衆國教育一班　郵定價二四錢　郵稅二錢

▲十字架と復活とは果して迷信乎　郵定價二三錢　郵稅二錢

▲近世文明と基督教　郵定價二二錢　郵稅二錢

▲世界的宗教　郵定價二二錢　郵稅二錢

神學博士　デフォレスト述

最大の學問

東京　警醒社書店

259
451

○傳道叢書發行の辭

本年は宣教事業開始後滿五十年に相當す。於此乎、諸教派は各自部署を定めて傳道運動に從事せり。此時に當りて吾人は、明治十六七年の頃、諸派共同無宗派的傳道をなしたりし往事を回想して、欽羨に堪へざるものあり。然れども今日となりては各派既に其歷史と特色とを有す、之を打つて一丸となし、以て大舉傳道に從事せしめんこと、固より二三有志者の力之を能くすべきに非ず。是れ吾人が筆を以て傳道するの方針を立て、諸派有志者その勢を分擔して以て、茲に本叢書を發行するに至りたる由縁なり。願くは大方の兄姉等が吾人の微衷を諒とし、此等書冊を適宜傳道の用に供し、同胞を神の國に導くの一助たらしめんことを。

明治四十二年六月一日

傳道叢書編輯者
星野光多

○基督教叢書　星野光多君編輯　各一部　定價金廿錢　郵稅金四錢

△基督教辯証論　有馬純淸君著
△基督教の本原眞理　露無文治君著
△聖書の價値　高橋卯三郎君著
△舊約聖書文學一班　今泉眞幸君著
△福音書概論　山鹿旗之進君著
△保羅と其著述　宮川巳作君著
△基督の比喩　八須德三郎君著
△耶蘇の三大親　星野光多君著
△基督の復活　小崎弘道君著
△靈魂不滅論　柏木義圓君著
△現世生活　山田寅之助君著
△現世と未來　武本喜代藏君著
△基督教の中心事實として祈禱　星野光多君著
△基督教小史　柏井園君著

（星野氏修養三書）

△基督教談（朝の卷）　紙數四百頁　郵稅金七錢　定價金三錢
△基督教思林（夕の卷）　紙數四百二十頁　郵稅金八錢　定價金三錢
△基督教觀通（聖日の卷）　紙數五百三十頁　郵稅金十錢　定價金三錢

星野氏述
△甦りたる生命の主
△基督信徒の緊急問題
△基督信徒の一死一生

聲振社書香
石丹